

今回実施した高潮浸水氾濫計算結果は、大阪湾で計画規模を上回る高潮が発生した場合を想定し、ゼロメートル地帯を中心とする沿岸地域に おける浸水の程度を把握するために実施した計算結果です。

計算に当たっては、台風のコースや規模、防潮堤や水門などの機能低下について一定条件を設定していますので、必ずしも計算結果どおりに浸水するものではありません。

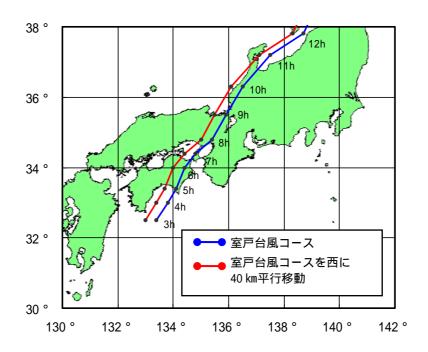
前提条件については別紙を参考にして下さい。

大阪湾高潮浸水氾濫計算について

1.前提条件

(1)台風条件

	浸水シナリオ 【現計画台風規模 】	浸水シナリオ 【台風の強大化】	浸水シナリオ 【台風の強大化】
台風中心気圧	伊勢湾台風規模 930hpa	異常気象による海水温上昇 により第2室戸台風の沖縄 付近の規模を想定 900hpa	同左
台風コース	室戸台風コース(現計画) 既往台風の中から大阪湾 に対して,最も危険な既 往台風コースを設定	室戸台風コースを 西に 40 km平行移動 大阪湾に対して,最も危 険な台風コースを新たに 設定	同左
上陸時からの 中心気圧の減衰	伊勢湾台風 (最も減衰が緩慢)	同左	同左
台風半径	伊勢湾台風の毎時の観測値	同左	同左
台風の移動速度	室戸台風の毎時の観測値	同左	同左
高潮発生確率 (潮位偏差の確率) 1/200 相当		1/750 相当	同左



(2)潮位条件

	浸水シナリオ 【潮位変動要素を考慮しない】	浸水シナリオ 【潮位変動要素を考慮する】	浸水シナリオ 【潮位変動要素を考慮する】	備考
潮位	台風期朔望平均満潮位 T.P.+0.9m (0.P.+2.2m)	台風期朔望平均満潮位 + 海面変動量 h T.P.+0.9m+0.2m = T.P.+1.1m (0.P.+2.4m)	同左	hは,地球温暖 化による海面上昇 高,南海地震によ る地盤沈下量,黒 潮蛇行による異常 潮位などを考慮

(3)高潮水門

シナリオ およびシナリオ では、船舶などの衝突等により、水門が機能不全になったものと仮定し、計算開始時点より浸水が始まるものとして計算する、対象とする水門は以下の通りである。

尼 崎:丸島水門

大 阪:安治川水門, 尻無川水門, 木津川水門

岸和田:岸和田水門

(4)浸水開始仮定箇所(付属資料-1)

箇所数は,最も激甚な被害シナリオを想定するため,浸水氾濫結果が極力広範に及ぶことを考慮して設定した.設定は以下の2つの地区に分けて行った.それぞれの地区については,以下の考え方に従い浸水開始仮定箇所数の分布(割合)を定め,それぞれ下記条件下において特に背後地盤の低い場所を選んで設定した.

一般ブロック地区 (赤線部分): 周囲が河川,水路,運河等に囲まれている地区

周囲が河川,水路,運河等に囲まれている地区や埋立地を1ブロックとし,1ブロックのうち約200ha当たり1箇所の割合で浸水開始仮定箇所を設定した(対象区域:武庫川左岸~大和川右岸の区間以外の埋立地)ただし,人口・資産が集中するゼロメートル地帯を含むブロックについては,被害が起きた場合の影響が深刻であることから,更に2~3箇所追加して設置した(対象区域:武庫川左岸~大和川右岸の区間)

海岸線地区(青線部分): ブロックで分けることができない地区

高潮防護ライン上に 1.5~2.0km 間隔で 1 箇所の浸水開始仮定箇所を設定した (武庫川右岸から神戸市西舞子の区間,大和川左岸から岬町の区間)

(5)浸水開始のタイミング

浸水が開始するタイミングについては以下の通りとする.なお,シナリオ 及び については,船舶等 の衝突などにより、水門等が機能不全になったと想定し設定した.

シナリオ : 潮位偏差のピーク(H.H.W.L.相当)時に指定した施設(浸水開始仮定箇所)が破堤すると仮定し,代表地点において潮位偏差がピークとなった時点において,すべての地点で浸水を開始させる.指定外の施設は,潮位偏差が施設天端高を超えた時に浸水する.

シナリオ :施設は破堤せず,潮位偏差が施設天端高を超えた時に浸水を開始する.

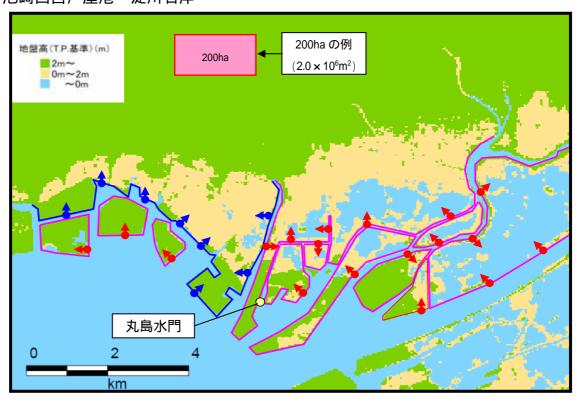
シナリオ : 潮位偏差がシナリオ の潮位偏差ピーク(H.H.W.L.相当)と同じ値になった時に指定した施設(浸水開始地点)が破堤すると仮定し,代表地点において潮位偏差がシナリオ で設定したピークと同値となった時点で,すべての地点において浸水を開始させる 指定外の施設は,潮位偏差が施設天端高を超えた時に浸水する.

浸水開始仮定箇所の設定図

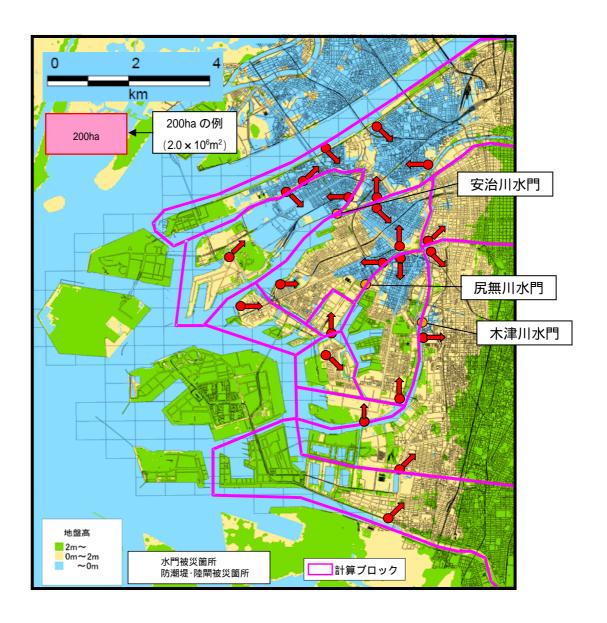
西舞子~神戸港



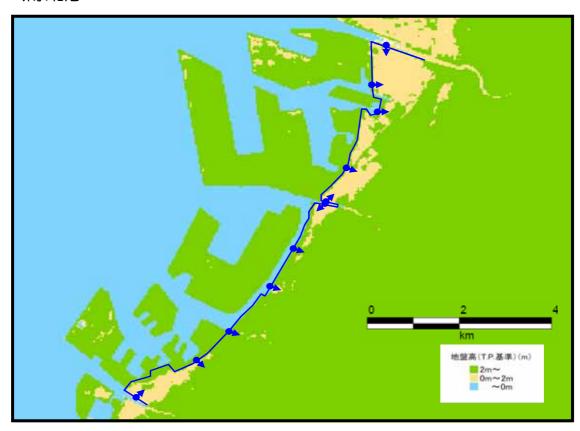
尼崎西宮芦屋港~淀川右岸



大阪港



堺泉北港



阪南港~岬町

